

独自開発プラント使用

オイルプラントナトリ

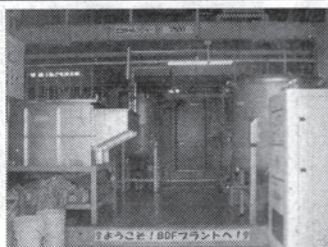
地域貢献を目指す

オイルプラントナトリ(宮城県名取市)は、廃食用油の回収量が年々増加している。

同社は、2004年度に宮城県環境産業新技術開発の認定事業として、産・学・官の協力体制のもと、廃食用油の回収、製造、販売まで一貫したバイオディーゼル燃料(BDF)の取り組みを行っている。2008年度の実績としては、年間回収量36万7000リットル、年間製造量22万1000リットル、販売および同社の年間製造量20万200

00リットルで、現在も増え続けている。

同社の開発したプラントの精製能力は、7500リットル/日で、特長としては、遠心分離機が導入されており、一日最小で200リットルから最大7500リットルまで需



独自開発したBDFプラント

要に沿った生産計画を立てられる。

また、同社はBDFの品質向上に努め、2009年3月に京都暫定規格の項目全ての基準をクリアしている。

回収先は、取引している工場の社員食堂を中心に、学校給食センターや一般家庭など市町村、行政、NPO等と共同で回収を行っている。

販売先は、環境活動に積極的な企業や、公共性の高い路線バス、工場のフォークリフト等の軽油代替燃料として利用している。

同社では、環境規制対応車両(新長期排ガス規制車両)でも問題なく、営業車両や大型

タンクローリー等の29台の燃料にBDFを使用している。

東京都内へ産業廃棄物収集運搬を行う際には、東京都適合車両標章のステッカーを装着して収集運搬を行っている。

同社の武田洋一社長は、「地球温暖化対策としてのCO₂削減活動を大いにアピールし普及活動に取り組み、環境ビジネスの一翼を担う企業として地域貢献したい」と語っている。